

JETRO X-HUB インドネシアコース

AC Biode株式会社

サステナビリティ

クリーンテックスタート アップ (化学的リサイクル技術)

AC Biodeは、京都を拠点とするクリーンテックスタートアップで、ACバッテリーと触媒を用いた化学的リサイクル技術を開発し、廃棄物を価値ある資源へと変換することで循環型経済の実現を目指しています。

AC Biode（ルクセンブルクではAC Biode S.a.r.l、日本ではAC Biode株式会社）は、京都、東京、ケンブリッジ（英国）、ルクセンブルク、アジア各地で事業を展開しています。CEOは久保忠志氏が務めています。

同社の技術目標は、有害な溶剤や希少金属を使用せず、環境に配慮した方法で化学的リサイクルと廃棄物のアップサイクルを可能にすることです。これにより、プラスチック汚染の削減、温室効果ガス排出の抑制、そして循環型経済の推進に貢献しています。

実績

- * 日本国内で自動車メーカーや化学メーカーを含む3件の有償パイロットプロジェクトを完了
- * インドネシアにて、パーム油廃棄物と混合プラスチックを有用なバイオ化学物質に変換するデモプラントを設立
- * スケールアップと商業化に向けて、4社のリアクターメーカーおよび35社のエネルギー・化学企業と提携



Tadashi Kubo
最高経営責任者



Dr. Atsushi Mizusawa
最高技術責任者



Robert Kunzmann
最高執行責任者



Dr. Habibur Rahman
チーフエンジニア

製品・サービス:

- * 化学的リサイクル プラスチックを脱重合し、有機廃棄物をモノマー、水素、アルコール、合成ガスなどの有用な生成物に分解します。



acbiode.com



habibur.rahman@acbiode.com

JETRO X-HUB インドネシアコース

Adora株式会社

ソフトウェア



AIペアレンタルコントロール

「次世代のために、安全なデジタル世界を創造する。」

Adora株式会社は、東京を拠点とするAIペアレンタルコントロールスタートアップで、危険なチャットの監視、スクリーンタイムの制限、歩行中のスマホ使用防止などを通じて、子どもをデジタルリスクから守る「Kodomamo」アプリを開発しました。

2023年7月に設立され、CEOの富田直人氏が率いるAdoraは、愛知県警および藤田医科大学との共同開発により、保護者が安心してスマートフォンを子どもに渡せるよう設計されたAI搭載の「Kodomamo」アプリを提供しています。

Kodomamoは、スマートフォン使用時に子どもが直面する様々なリスク（危険なチャット、いじめ、自傷行為、過度な使用、歩きスマホ、不適切な画像、位置情報の安全性など）に対応します。プライバシー保護にも重点を置いており、チャットや画像の検出などのセンシティブな解析は、外部にデータを送信せず、子どもの端末上で処理されます。

実績

- * 世界中で150,000人以上のユーザーがインストール（2025年時点）
- * 日本国内の1,000店舗で3,000世帯にリーチ
- * ソフトバンク、KDDI、ドコモの3大企業を通じて6,800店舗へ拡大中
- * 日本政府のアクセラレータープログラムに選出され、子どものオンライン保護に関する省庁・警察との公式ワーキンググループに参加



Naoto Tomita

最高経営責任者



Taiga Yamazaki

事業開発責任者
(Head of Biz Dev)



Ryu Kasumi

カスタマーサポートマネージャー



Ung Gabriella

インドネシアリーダー

製品・サービス:

- * Kodomamo™ AI搭載のペアレンタルコントロール/子ども安全アプリ



kodomamo.com



taiga@adora-app.com



Algal Bio



Adora - Parental Control

JETRO X-HUB インドネシアコース

Asuene APAC Pte. Ltd. — サステナビリティ



「脱炭素化へのワンストップソリューション」

Asuene APACは、日本発のクライメートテック企業であり、アジアを代表するカーボンアカウンティングクラウドプラットフォーム「ASUENE」を提供しています。企業がスコープ1～3の温室効果ガス排出量を測定・削減・報告することを支援し、ネットゼロへの移行を加速させます。

Asuene APAC Pte. Ltd.は、Asuene株式会社のアジア太平洋地域拠点であり、脱炭素社会への移行を加速するために設立されました。テクノロジーとコンサルティングを融合したオールインワンのソリューションを提供し、企業のネットゼロ達成を支援します。

同社のプラットフォームは、カーボンフットプリントの定量化、サプライチェーンとの連携、ESGパフォーマンスの向上、業界横断的な持続可能性戦略の実施を可能にします。

実績

- * 10,000社以上がAsueneのカーボンプラットフォームを利用
- * 14,000社以上がサプライチェーンESG評価プラットフォームを利用
- * 500万トン以上のカーボンクレジットをプラットフォーム上で取り扱い
- * 三井住友銀行（SMBC）などの大手銀行に対し、ファイナンス排出量とサステナブルファイナンス報告を支援
- * TIME誌「世界のトップグリーンテック企業2025」でAPACおよび米国企業の中で第1位にランクイン



Masaaki Hamada

アジア太平洋地域 マネージングディレクター



Shu Setogawa

アジア太平洋地域 営業・事業開発ディレクター



Audrey Chai

カスタマーサクセスマネージャー / サステナビリティコンサルタント



Sal Sim

プロダクトソリューションディレクター

製品・サービス：

クラウドベースの気候・カーボンアカウンティングプラットフォーム

JETRO X-HUB インドネシアコース

Bee Informatica株式会社 — フィンテック

AIマイクロファイナンス・
中小企業向け融資

「すべての小規模事業者が簡単に資金にアクセスできる世界を創る。」

Bee Informaticaは、東京を拠点とするフィンテックスタートアップで、「Funding Bee」プラットフォームを通じて、東南アジアの小規模事業者や女性起業家が公平かつ責任ある融資にアクセスできるよう、デジタルマイクロファイナンスと代替信用スコアリングを提供しています。

共同創業者の稲田文子氏は、東京での経験とNGO活動、そしてテクノロジーの知識を活かし、東南アジア（例：マレーシア）で従来の書類や担保がないために融資を受けられない小規模事業者の課題を解決するためにこのアイデアを生み出しました。

このプラットフォームは、心理テスト、銀行取引履歴、ソーシャルメディアデータなどの代替信用スコアリング手法を用いて申請者を評価します。マレーシアでデジタル融資ライセンスを取得し、より広範なサービス展開を目指し、融資を迅速・公平・容易にすることを目標としています。

実績

- * 日本の主要なイノベーションコンテスト（Fintech Japan 2022、Tokyo Financial Prize 2022）で複数受賞
- * マレーシアで初の完全デジタル融資事業者の一つとして、100%AI駆動のデジタル融資を実現
- * 資金調達後、7か月連続で融資残高を成長
- * 融資残高が月間1,000万～1,400万円増加、毎月10～15件の新規融資を達成



Fumiko Inada

創業者兼最高経営責任者



Syed Asif

最高事業責任者 / 最高製品責任者



Kenny Chin

アドバイザー



Johnny Tin

外部最高技術責任者

製品・サービス:

- * “ENTREBITION” (Entrebition by Bee Informatica) が提供する中小・零細企業向けマイクロローンプラットフォーム



JETRO X-HUB インドネシアコース

FutuRocket株式会社 — IoT / スマートデバイス



FutuRocketは、東京を拠点とするスタートアップで、赤外線センサーとエッジAIを活用し、ネズミや昆虫をリアルタイムで識別・監視するAI搭載害虫検知デバイスを開発しています。同社は、食品、物流、農業業界における衛生管理と害虫による被害防止を目指しています。

2017年に設立されたFutuRocketは、画像認識、センサー、クラウド接続を組み合わせたハードウェア+ソフトウェアのIoTソリューションを設計・製造しています。主力製品「PexAI」は、レストラン、倉庫、畜産農場などの施設でネズミやゴキブリを早期に検知することを可能にします。

FutuRocketは、大手企業や研究機関と連携し、スマートセンシングや環境モニタリングの研究開発を推進。日本やアジアで複数のパイロットプロジェクトを実施し、次世代AI害虫防除技術の商業化を進めています。



Hiroumi Mitani
最高経営責任者



Takuro Fukamizu
最高技術責任者



Roman Kat.Igorovych
チーフエンジニア

実績

- * Plug and Play JapanやHAX Tokyoなどの主要アクセラレータープログラムに選出
- * JAアクセラレータープログラムに参加し、害虫監視のアグリテック革新を推進
- * 三菱電機の共創プログラムに選ばれ、赤外線センシング技術を活用した次世代AI害虫検知デバイスを開発

製品・サービス:

- * PexAI, 害虫防除用AIカメラ

JETRO X-HUB インドネシアコース

株式会社LIFESCAPES

リハビリテーション

ブレイン・コンピューター インターフェース (BCI)

LIFESCAPESは、東京を拠点とするメドテックスタートアップで、脳卒中後の重度麻痺患者が自立した運動機能を回復できるよう、神経経路を再構築するBCI（ブレイン・コンピューター・インターフェース）デバイスを開発しています。

2018年5月に慶應義塾大学からスピンアウトして設立された株式会社LIFESCAPESは、代表取締役の牛場潤一氏が率いています。同社は、脳卒中後の重度麻痺患者に対するリハビリテーションの選択肢を拡張することを目的に、損傷した神経経路の活性化を可能にし、生活の質を向上させるBCI技術の開発と普及に取り組んでいます。指の自発的な動きを可能にするデバイスの実現を目指しており、インドネシアでの実証調査など国際展開にも取り組んでいます。

実績

- * 臨床的に証明された回復効果：わずか10日間で74%の筋肉反応回復
- * 複数の査読付き研究により技術が裏付けられている
- * 脳卒中および脊髄損傷のリハビリにおいて、1,000件以上の臨床事例で使用
- * 患者を対象とした臨床試験11件（進行中7件）、健常者を対象とした概念実証試験15件を実施



Ryotaro Hirose
副部長



Yoshihito Muraoka
プロジェクトリーダー



Junichi Ushiba
創業者兼最高経営責任者



Masaaki Hayashi
部長 / 最高戦略責任者



Ryo Suzuki
部長 / 最高執行責任者



Koji Morikawa
最高技術責任者

製品・サービス:

* コンピューター・
インターフェース
(BCI)

脳卒中後の重度麻痺患
者を支援する技術

JETRO X-HUB インドネシアコース

ニヒンメディア株式会社 — ヘルスケア

MedGen Japan, 医師向けAIアシスタント

「臨床支援AIアシスタントが信頼できるエビデンスを1分で届ける」

ニヒンメディア株式会社は、東京を拠点とするヘルスケアAIスタートアップで、高精度の医療エビデンス収集を今までの100倍加速させる臨床支援AIアシスタントを提供しています。

2023年6月に設立されたニヒンメディア株式会社は、アジア市場における医療業界のAIトランスフォーメーションを推進することをミッションとし、2030年までにアジア地域のリーディングプレイヤーとなることを目指しています。同社は、アジア諸国において医療の情報収集の課題と一緒に立ち向かうパートナーを探しています。

実績:

- * 「MedGen Japan」アプリは現在、日本国内で4,500人程の医師に利用されています
- * 順天堂大学や東京医科歯科大学など、日本トップクラスの医大と共同プロジェクトを行い、有用性を実証しています。
- * 日本およびアジア市場での展開に向けて、2社のグローバル投資家から資金調達を実施済みです。



Manju

共同創業者 / 最高AI責任者 (CAIO) 兼
テックリード



Kota

共同創業者 / 最高経営責任者 (CEO)



Dr. So Ishii

メディカルアドバイザー / 循環器専門医

製品・サービス:

- * MedGen 医師のためのAIアシスタント Japan

JETRO X-HUB インドネシアコース

PEEL Lab Inc.

Sustainability

グリーンテック（植物由来 レザー）

PEEL Labは、日本のB2Bグリーンテック企業で、主にジュース工場から調達したパイナップルの葉などの農業廃棄物をアップサイクルし、従来の動物性・合成皮革に代わる倫理的な植物由来レザーを製造しています。

2021～2022年頃に設立され、大阪を拠点とするPEEL Labは、果物の皮や植物素材などの食品廃棄物をアップサイクルし、ヴィーガン対応・環境に優しく・倫理的に生産された持続可能なレザー代替素材を提供しています。動物性や合成皮革に代わる、よりサステナブルで低環境負荷な素材を求める企業やブランド向けに、原材料および製品を展開しています。ココナッツの殻や木材チップなど、新素材の開発にも取り組み、アジアでの事業拡大を進めています。

実績

- * 動物福祉基準に基づきPETA認証を取得
- * フランス商工会議所主催「French Business Awards 2022」にてサステナブル開発賞を受賞
- * 「Origin Innovation Awards 2022」にてStartup Trailblazers部門のStartup Leader of the Yearを受賞
- * 2022年に約180kgのパイナップルの葉をアップサイクルし、800メートル以上の植物由来レザーを製造。約1,500kgのCO₂排出を削減
- * 日本とタイで製品を販売、東南アジア5か国以上への展開を進行中
- * 大阪、東京、バンコク、ホーチミン市に拠点を設立
- * 世界的に認知され、Solar Impulse財団のWorld Allianceメンバーとしてグリーンテック分野のイノベーターに選出



Jim Huang

創業者兼最高経営責任者



Pat Rimphadee

タイ共同責任者



Neal Murata

アメリカ地域責任者



Sayo Yamaguchi

ビジネスディレクター

製品・サービス:

- * 植物由来レザー：パイナップルの葉などの農業廃棄物をアップサイクルして製造

JETRO X-HUB インドネシアコース

Spacewasp Inc.

Sustainability



Spacewaspは、岐阜市に本社を構えるクライメートテックスタートアップで、植物廃棄物をカーボンネガティブな内装建材へと変換し、AIと自動化技術を統合することで、持続可能で循環型の空間づくりを実現しています。

2022年11月1日に設立され、代表取締役は伊勢崎 勇人 氏。滋賀県に自社工場を構え、同社は以下の2つの課題に取り組んでいます：環境負荷・気候変動（CO₂の吸収と植物廃棄物の活用）、従来の内装建築における人材不足・コスト・時間の課題（熟練労働者の不足、長期工期、コスト上昇）これらの課題を解決するために、AIと3D設計を活用した独自の3Dプリンター、自動化された製造プロセス、そして植物由来の樹脂素材を自社開発しています。

実績

- * カシワバラ・コーポレーション、NOBUNAGAキャピタルピレッジ、OKBキャピタル、日比谷花壇などからJ-KISS型で5,100万円のプレシード資金調達
- * セイノーホールディングスと連携し、木のパレットを中心に植物由来素材のアップサイクルによる内装製品を開発
- * 「TOP 10 Japanese Startups 2025」「Boost Up OKINAWA 2025」など主要スタートアッププログラムに選出
- * 「Kering Generation Award Japan」で120社以上の中からトップ11に選出
- * 住友不動産、Kering、セイノーHDなどの企業がクライアントとして採用



Hayato Isezaki

最高経営責任者 / 最高執行責任者



Ryoji Setoguchi

最高マーケティング責任者 / 最高事業責任者



Masaki Tatera

最高技術責任者 (CTO) / 機械開発担当



Hiroko Yamada

素材マネージャー

製品・サービス:

- * 植物由来素材を活用した持続可能な内装空間の構築



en.spacewasp.net/



info@spacewasp.net